

昭和63年11月2日

バイオフォーカスWTに係わるパイロットプラントの報道関係者への公開スケジュール等について

## I、スケジュール

14:10~14:45 概要説明

- 1、バイオフォーカスWTについて
- 2、公開するパイロットプラントの範囲について

バイオフォーカスWTに係わるパイロットプラントの設置場所
バイオフォーカスヤード： 13社、1法人の14のパイロットプラント
バイオフォーカスヤード以外： 14社の15のパイロットプラント

- 3、パイロットプラントについて
- 4、パイロットプラントの開発目標等について

15:00~15:15 バイオフォーカスWTに係わるパイロットプラント開所式

- 1、開会の言葉 建設省土木研究所下水道部長 松井大悟
- 2、テープカット 茨城県土木部下水道課長 長山智由  
建設省下水道部長 福井経一  
建設省土木研究所研究調整官 岩崎敏男  
荏原インフィルコ(株)開発第一部長 中村峯也
- 3、MRB通電 長山課長、福井部長
- 4、安全祈願 岩崎研究調整官、中村部長
- 5、閉会

15:15~17:00 バイオフォーカスヤード公開

## II、取材について

- 1、バイオフォーカスWT、及びパイロットプラント全体に関する取材について  
概要説明の時に受けますが、時間が足りない場合は、バイオフォーカスヤード入り口右の建て屋内で建設省土木研究所の担当職員等が受けます。
- 2、個々のパイロットプラントに関する取材について  
バイオフォーカスヤード内のパイロットプラントには、それぞれの会社の担当者がおりますので、取材してください。又、バイオフォーカスヤード以外の会社の担当者も、現地におりますので、取材してください。

昭和63年11月2日

## バイオフィーカスW. T. パイロットプラント実験の目標と取り扱い

### 1. パイロットプラント実験の開発目標

29種類のパイロットプラントにそれぞれの開発目標が設定されているが、ここでは表に示したリアクターの分類別に大まかな開発目標を述べる。

#### (1) 下水処理用好気性バイオリアクター

処理時間を大幅に短縮し、下水処理場の必要用地面積を縮小する=省面積。

従来法の処理時間：6～8時間

開発目標：従来法の処理時間を $1/2 \sim 1/10$ に

#### (2) 下水処理用嫌気性バイオリアクター

処理に必要なエネルギーを大幅に削減する。

従来法で用いられていた送風機（ブローア）が不用。

処理に係わるトータル電力使用量を $1/2$ に=省エネ。

余剰汚泥発生量の削減

従来法の $1/2$ に

#### (3) 下水高度処理用バイオリアクター

窒素などの栄養塩類の除去を短時間で達成

現在12～24時間必要な処理時間を $1/2$ 以下に

既存の処理場でも窒素除去が可能に

#### (4) 汚泥処理用バイオリアクター

a. 汚泥の大幅な減量化、メタンガス回収量の大幅アップ

汚泥の分解率を50%アップ

b. 必要処理時間の大幅な短縮

従来法で20日以上必要な処理時間を $1/4$ の5日に

#### (5) 固液分離用リアクター

下水処理用バイオリアクターに最適な前処理装置の開発

下水処理用バイオリアクターに流入する浮遊物を $1/3$ に

#### (6) 具体例：多段反転流式バイオリアクターの開発目標

処理時間：従来法の $1/4$

必要電力量：従来法の $2/3$

汚泥発生量：従来法の $2/3$

その他、汚泥の取り扱いが容易（濃縮性に優れる）、などの特徴を有する。

### 2. 成果の取り扱い

(1) パイロットプラント実験で得られた成果は、まとめ次第公表する。

(2) 建設省として積極的に下水道事業への適用を図っていく所存である。

(3) 地方公共団体からの問い合わせには、土木研究所として充分な対応をする。